



令和3年は死亡数が出生数を約1万人上回り自然減少が拡大

社会動態では、若い世代を中心に転出超過が続いている

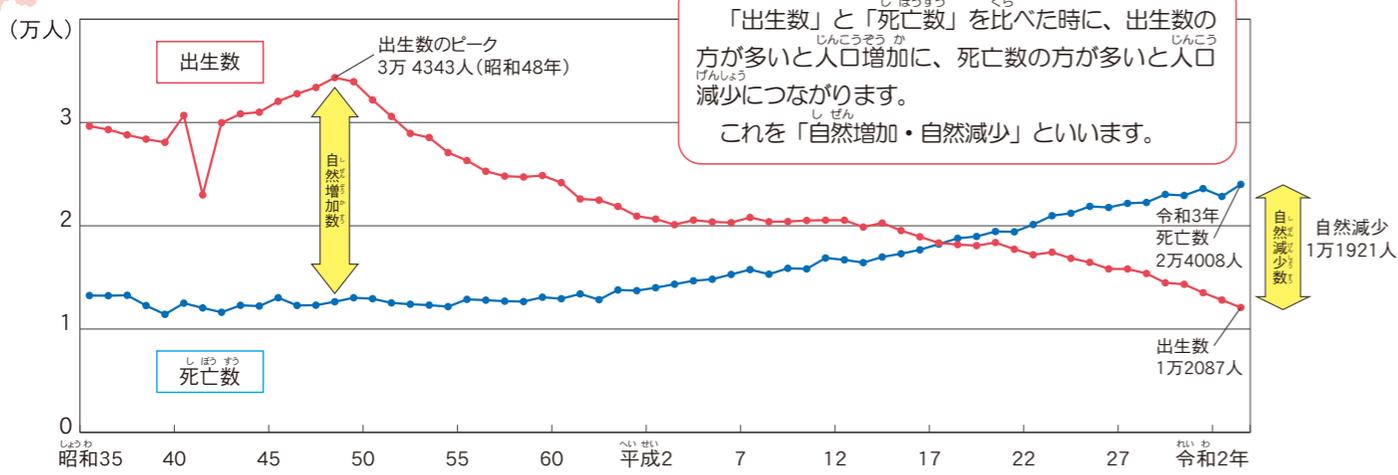
合計特殊出生率が回復傾向にあっても出生数が増加しないのは、母となる女性の減少のため。転入と転出の差を比べた社会動態をみると、若い世代で職業や学業による転出超過が続く。

1世帯当たり人員は2.49人で多い方から全国5位

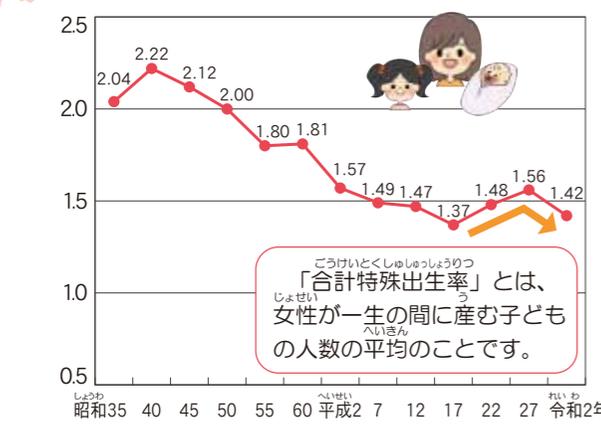
小家族化は進むが、3世代同居が多く1人暮らしが少ない

人口減少の一方で世帯数が増加し、1世帯当たり人員は減少しているが、全国の2.21人と比較すると多い方。共働き率や持ち家住宅率が高いことが特徴。

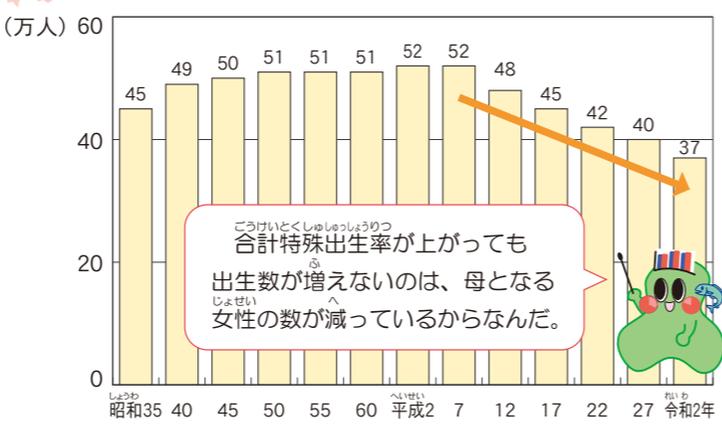
1 出生数と死亡数のうっすり変わり (岐阜県)



2 合計特殊出生率 (岐阜県)

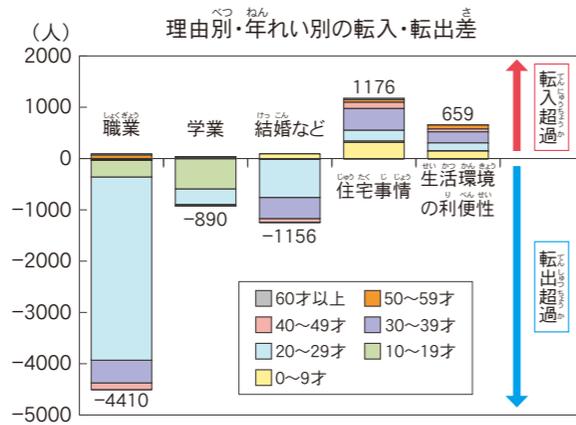


3 15~49才の女性の数 (岐阜県)



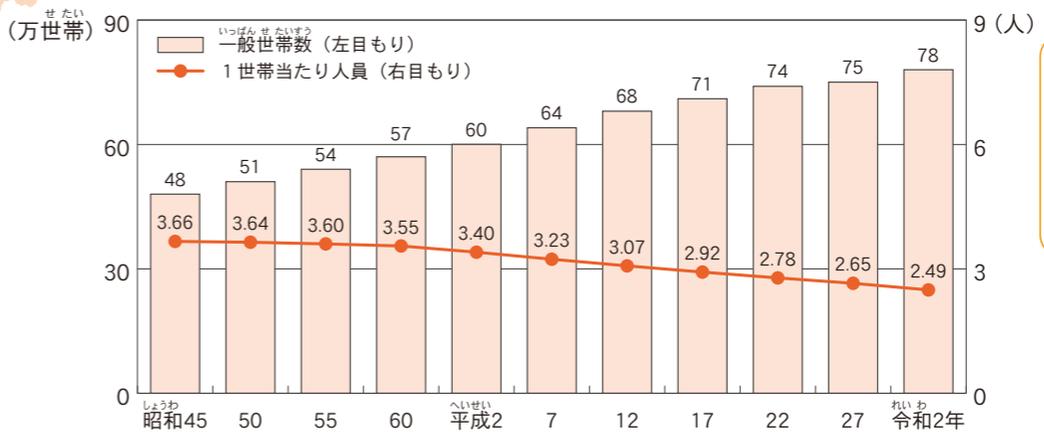
4 転出超過によって6360人の人口減少 (令和3年)

令和3年の転出超過は、理由別にみると、20才代を中心とした若い世代で、「職業」「学業」「結婚など」を理由とした転出超過が目立つ。一方、「住宅事情」や「生活環境の利便性」では、転入超過となった。



「転入数」と「転出数」を比べた時に、転入数の方が多いことを「転入超過」、転出数の方が多いことを「転出超過」といいます。転出超過によって人口が減ることを「社会減少」といいます。

1 岐阜県の世帯数と1世帯当たり人員



1世帯当たり人員とは、1世帯（一緒に生活する者の集まり）の人数の平均で、家族の大きさを表しています。

2 1世帯当たり人員

全国平均 2.21人

1位	2.61人	山形
2位	2.57人	福井
3位	2.51人	佐賀
4位	2.50人	富山
5位	2.49人	岐阜
6位	2.48人	新潟
7位	2.44人	鳥取

3 1人暮らし世帯率

全国平均 38.1%

47位	28.5%	山形
46位	29.3%	奈良
45位	29.5%	岐阜
44位	29.7%	福井
43位	29.9%	富山
42位	30.4%	佐賀
41位	30.6%	秋田

4 共働き率

全国平均 23.7%

1位	34.7%	福井
2位	34.4%	山形
3位	32.8%	富山
4位	31.4%	長野
5位	31.2%	島根
6位	31.0%	新潟
7位	30.9%	佐賀
8位	30.9%	岐阜

5 持ち家住宅率

全国平均 61.2%

1位	77.3%	秋田
2位	76.8%	富山
3位	74.9%	山形
4位	74.9%	福井
5位	74.3%	岐阜
6位	74.1%	奈良
7位	74.0%	新潟

6 1人当たり居住室の畳数

全国平均 32.7畳

1位	45.9畳	富山
2位	44.1畳	秋田
3位	42.9畳	福井
4位	42.8畳	山梨
5位	42.0畳	岐阜
6位	41.8畳	新潟
7位	40.9畳	石川

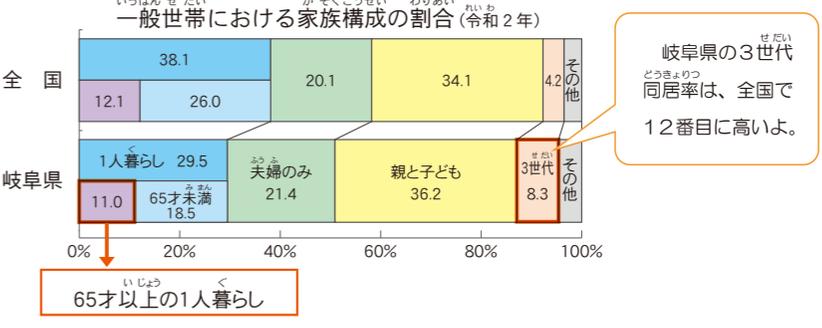
7 1世帯当たり自動車保有台数

全国平均 1.04台

1位	1.72台	福井
2位	1.66台	富山
3位	1.65台	山梨
4位	1.60台	群馬
5位	1.58台	栃木
6位	1.57台	長野
7位	1.57台	茨城
8位	1.55台	岐阜

8 65才以上の1人暮らしは、9世帯に1世帯

全国と比較すると、岐阜県は1人暮らしが少なく、3世代同居が多い。しかし、小家族化は年々進んでおり、30年前（平成2年）には、33世帯に1世帯であった65才以上の1人暮らしが、令和2年には、9世帯に1世帯となった。



岐阜県の3世代同居率は、全国で12番目に高いよ。

(出典：人口の動き) グラフ1、4:「岐阜県人口動態統計調査」(各年の前年の10月1日から翌年の9月30日までの1年間の数) グラフ2:厚生労働省「人口動態統計」 グラフ3:総務省「国勢調査」(各年10月1日現在) (出典：世帯と暮らし) グラフ1:総務省「国勢調査」(各年10月1日現在) グラフ2~4、8:総務省「国勢調査」(令和2年10月1日現在) グラフ5、6:総務省「住宅・土地統計調査」(平成30年10月1日現在) グラフ7:一般財団法人 自動車検査登録情報協会「自家用乗用車の世帯普及台数」(令和3年3月末現在)